

総会長主導企画2 「CKDの病診・病病連携—腎臓専門医の役割」

Closing Remarks

現状を踏まえ、CKD患者の福音のために、今後腎臓学会として考慮すべきこととして、以下の点が挙げられた。

- ①かかりつけ医（非腎臓専門医）、腎臓専門医であるかかりつけ医、基幹病院の腎臓専門医の3者の住み分け（CKD患者診療の守備範囲の色分け）
- ②お互いの顔の見える診療連携（かかりつけ医と腎臓専門医の連携の第一歩として）
- ③腎臓専門医の標準化（紹介患者への専門医としての一定レベルの対応の確保）
→医療連携に対する、腎臓専門医の意識・対応の標準化
- ④多職種連携（看護師、栄養士、保健師、薬剤師、検査技師、MSW）

さらに会場からの腎臓学会へのCKD対策の一環としての要望として、

- ①多忙なかかりつけ医のための、わかり易い簡単なCKD診療ツールの作成
- ②保健師などが紹介できる医師（非腎臓専門医と腎臓専門医）・栄養士・薬剤師などのシステム化
- ③地域医師会への腎臓専門医の参加と、医師会での専門医としての提言